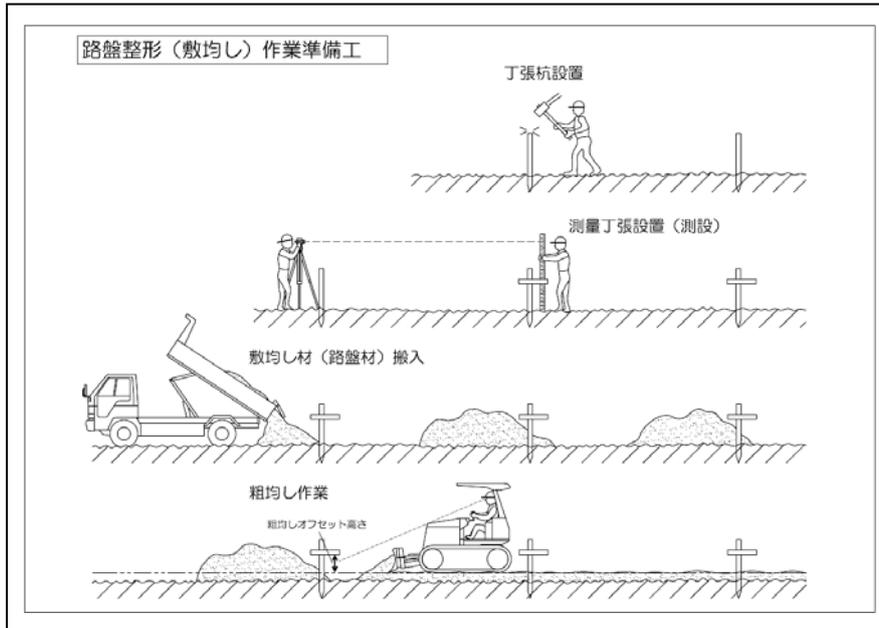


## Q1. 従来の建設機械の操作手順はどのように行われますか？

建設機械を利用して、盛土、掘削、敷き均し作業等を行う場合、予め設計データを基に作業対象エリアに丁張やトンボなどの目安杭を設置して、操作員は運転席から杭と作業装置との偏差を目視で確認しながら、操作レバーを動かします。



したがって、出来形精度、生産性は操作員の技量によって大きく左右されるとともに、出来形のチェックは丁張杭間に水系を張り、スケールで検測を行うため、機械作業の合間をぬって行う検測は、常に危険が伴います。



舗装工事、構造物打設工事などで、予め測量作業によって設置された操作基準線  
を作業装置がトレースする自動操作も行われていますが、前もって手間のかかる操作  
基準線設置作業が必要となります。また、追随性に限界があるため、施工速度の遅い  
舗装工事などに限られており、施工速度の比較的早い土工用機械の制御には向いて  
いません。

